

# 磐城立憲新報

發行所 磐城郡石城町  
 印刷所 磐城郡石城町  
 電話 七〇七  
 社報新憲立城磐

## 世の中を素す 根城はここにあり

小泉 玉水

始末に困る程の財も有りをして堂々たる邸宅を構ひ  
 自らの政治家と任じ實業家と誇り威風堂々と活歩し何の  
 不自由のない者が巧みに錦の袖に隠れ表面紳士然とし  
 て罪惡非道を敢て意とせず社界を毒し其の正体を暴  
 露する如き不逞のものが世に有り世を素す根城はここ  
 容れざる罪惡を犯す者と云ふべし世を素す根城はここ  
 知りぬ不況の爲めに戦々競々として腕の飯を窮し路  
 傍に倒るゝ如き實に同情に忍びないものでも道念を脱  
 せす人として爲す可からざる不純の行爲を避けるは常  
 である諸君活眼を開いて社界の實相を觀よ

### 沈黙の悲哀

聖公會牧師 加藤泰治

公衆の前で自己の所懐を披瀝するの事は出シヤリだ惡  
 徳だど心得たのが日本の古  
 習慣だ、何事も公衆の席  
 で議決するといふは表面だ  
 けで實は小數の陰謀者がチ  
 ヤンと秘密裡に拵へ上げた  
 屠立てに過ぎない、何しろ  
 幾百年來「口は禍の門」だ  
 心得て生活して来た日本人  
 である、專制政治の下に言  
 論の自由を奪はれ乍ら長い  
 間苦情一ツ述べなかつた不  
 思議な人種である、  
 物に必要な所には發達し  
 ない言論の自由なく従つ  
 て其必要を認めなかつた過  
 古に於て大雄辯家を生ま  
 かつたが、無理はない、時  
 代は矢の如く進展する普選  
 制も近く實施される、此新  
 時代に生くるものは少くも  
 自己の思想を對者に、公  
 衆に傳へるだけの舌の力を  
 養ふべきである、然し其は  
 然るに發表すべき材料のな  
 い沈黙は悲哀である、又發  
 達するに方途を缺いた沈黙  
 は反逆である、一は自己の  
 會議を有してゐる、けれど  
 無爲無能を表示し他は其  
 見よ吾人の代表者を！  
 元來吾人は言論の眞價と其  
 應用とに就て頗る曖昧な考  
 考を置く中立と稱する種類  
 の第一に「於て廣く會談す  
 明治大帝は五ヶ條の御誓文  
 の第一に「於て廣く會談す  
 眞意は言論を可ならしめん  
 どの口實を有すれども大多  
 數は價値なき言論を價値づ  
 けんとする避難所に過ぎな  
 い、而して完く其言論は自  
 由の行動を失ふ。而も多數  
 て行かねばならぬ。

裁縫教授 若松アサ 額賀廣次 國井清義 涌井保 田所恒夫 小泉一良 坪井武平 穴戸魚店 大谷時計店

石城銀行組合 平町三業保健組合 城炭礦業所 朝鮮炭礦事務所 大網漁場 山家メリアス店 平町公立學校 校懇話會

磐城銀行四倉支店 磐城炭礦合宿所 内郷村綴磯 内郷村 玉川村收入役 赤井村炭礦業 石城郡第三小學校長會

### 祝特別號

縣會議員 鈴木辰三郎 兒玉萬平

農工銀行平支店長 河西八十治 小野晋平

七十七銀行平支店長 小原長英 鈴木源藏

關内油店主 關内正一 青木貴一郎

土木建築請負業 佐々木健一郎 大平睦四郎

河田商店主 河田梅吉 中野甲藏

川瀨炭礦々主 川瀨幸治 三井履物店主 三井常松

製綿問屋 野上龜太郎 山崎與三郎

平銀行頭取 山崎與三郎

磐城實業銀行支配人 鈴木源藏

磐城水産工業株式會社社長 小野晋平

釜屋商店 諸橋元三郎

川部村長 兒玉萬平

釜屋商店 諸橋元三郎



# 果して財政行き詰まりの打撃か

## 疑ひば疑はる、磐銀の重役

世人周知の通り都市に起る庭の一流銀行がバタ／＼倒れ一般金融界に一大動搖が来た、其の飛火が地方金融界にも振りかぶり現に本縣福島に本店を置く福商、福銀共に枕を並べ休業の止むなきに到つた是は地方金融界の爲め遺憾とするものである、愈々火の子は平町警城銀行に舞込み地方に歴史ある同行も遺憾乍ら休業と云ふ餘儀なき事情に立ち至つた、休業の理由として警城は左の如く語る

昨年の東京に於ける銀行界に惹起した一大恐慌の餘波を受け緩慢なる取付けを受けるに至つた當行としても當然斯くあるべき事を豫期して日本銀行よりの特融を受け相當の對策を講じて居た爲めに當時約二百萬圓の預金引出に遭遇したがどうやら辛じて其の苦境を切り抜ける事が出来、取引者にも迷惑を掛けずどうやら愁眉を開く事を得たのであつた、然るに本年に這入り而も資金の需要期

# 突休業の磐銀と

## 其の成り行を注目さる

に及んで依然として緩慢なる引出は持續の姿であるのみならず、俄然彼の福島銀行が戸を閉める事に至つた爲め相當に大きな打撃を蒙り且つ預金者の不安を増した結果益々引出が多くなつたので始めて當行は全く金に詰る結果を招來した、然れ共五月八日までの特融の期間もあつた事とて幾分補ひも付いて居り一方東京の堅實なる某銀行との間に合同談話を進めあらゆる方法を講じて絶えざる努力に依つて難局を打開し事の解決を圖らんと日夜大に苦慮する處あつたが預金の引出の止まない結果事今日に及んだのである、而して是れが爲め合同談話は打切つたのである、休業の上相談を進めやうとの事に諒解も付いたのであるから今後必ず永い期間を経過せず合同再生の銀行として開店する事が出来る確信を有してゐる、目下は白井専ら掉の差じ方が頗る巧妙でな頭腦の持ち主たる現縣議古川傳一氏は現代政治家と

## 記者より觀たる

### 郡南を擔ふ

#### 人物短評

### 安島重三郎氏

郡南の總裁たり石城政友會の長老安島重三郎氏は少壯より政界に乗り出し何んかの苦もなく代議士の榮冠を得る幸運兒にして今頃まで政界の飯を喰つてゐれば優大に苦慮する處あつたが結果事今日に及んだのである、而して是れが爲め合同談話は打切つたのである、休業の上相談を進めやうとの事に諒解も付いたのであるから今後必ず永い期間を経過せず合同再生の銀行として開店する事が出来る確信を有してゐる、目下は白井専ら掉の差じ方が頗る巧妙でな頭腦の持ち主たる現縣議古川傳一氏は現代政治家と

### 金成通氏

郡南の大立物石城政友會屋とは全然其の趣きを異にしたミッシリした量見と明快な頭腦の持ち主たる現縣議古川傳一氏は現代政治家と

### 古川傳一氏

郡南の大立物石城政友會屋とは全然其の趣きを異にしたミッシリした量見と明快な頭腦の持ち主たる現縣議古川傳一氏は現代政治家と

### 赤津亦太郎氏

議員當時は随分羽振をきかした働きの者であつた、畑は今の民政系であるが賢明な氏は意志の合はない不淨の土一所に世帯持ちに望まないと云ふ處から超然として政黨に深入せず今日の所では傍觀の態度を保持して居るが賢者危きに近かつた類で見切りを早くする所は流石は赤津氏だ

### 秋山清太郎氏

老て益々盛なり語る事は整然として舊体を脱して居る少壯より村治に奔走し終始一貫地方の爲めに粉骨努力せる同村の恩人にして先職に選ばれ其の他幾多の公職に選ばれ其の巧績に依り表彰を受ける事二三に止まらず實に地方に取つて得難き人物である

### 山下田嘉一郎氏

目下意氣洋洋々として働きの盛りの郡南に相當の權威を有する山下田村の山下田氏は先消防組頭を務め公共事業に盡瘁し同村の爲めに一日九の如く三尺の体軀肌脱いた人物である當然安島氏の後を襲き村治を統制する腕がある、頭腦も總明で尚慈善心の豊富な地方の中堅人物として目されて居る割つた様な嫌味のない手腕家である

### 山崎登氏

郡南の團將金成二黨の總務格として郡南に其の重きを爲し一切を切り廻し前途を期待されてゐる青年紳士植田物産の山崎登氏を知りたる人はあるまい、昔を語る日吉丸の如く三尺の体軀肌脱いた人物である當然安島氏の後を襲き村治を統制する腕がある、頭腦も總明で尚慈善心の豊富な地方の中堅人物として目されて居る割つた様な嫌味のない手腕家である

### 佐川朗

消防組頭

### 小野未吉

炭礦業

### 坂本龜太郎

消防組頭

### 大平又一

山田村

### 助川新三

植田町

### 安田屋吳服店

植田町

### 丸三運送店

植田町

### 森合齒科醫院

院長 森合芳男

### 大野武春

牛乳舎

### 高木五郎

收入役

### 植田女學校

植田町

### 植田藝妓屋

植田町

### 中山吉之助

土木建築請負業

### 綠川徳次郎

川田炭礦主

### 山添代次郎

炭礦業

### 齊藤治尾

警城高等女學校父兄代表

### 赤津久治

植田町

### 坂本自動車部

植田上遠野町

### 梅澤新次郎

植田町

### 植田自動車

植田町

### 大平芳介

山田村

### 森材木店

植田町

### 篠原商店

錦村

### 白自動車部

磐崎屋

### 片岡醫院

植田町

### 小野七三郎

勿來町

## 木田喜平太

好間村

## 秋山鐵工場

江名町

## 白土清助

双葉郡久之町

## 新妻兄次郎

久之濱町

## 岡田定助

久之濱町

## 近代珍無類の出來事

氣の毒な若い男女の仕損じ

人目を忍んで公園の

## 鈴木源藏氏

白河に榮轉する事に内定因卓越し地方開發に努力せる愛情をもつて助け導き慰められた諸賢に感謝する何の表現も出来なかつたことを悔ゆる涙だけが其所に残る

## 藤田淺之助

植田町

## 大平千秋氏

藤田町

## 赤津島治

赤津島治

## 祝特別號

川前村

## 祝特別號

赤井村長

## 株式セメン瓦工業所

代表者 赤津島治



愁眉を開く事を得たのであつた、然るに本年に這入り而も資金の需要期

する事が出来る確信を有する事が出来るは時代の潮流

大平千秋氏 藤田淺之助 植田藝妓屋組

小野七三郎 勿來町

植田町 植田町

植田町 植田町

植田町 植田町

植田町 植田町

木田喜平太

製罐物式製作

秋山鐵工場

江名町

白土清助

双葉部久之町

新妻兄次郎

久之濱町

岡田定助

久之濱町

植田藝妓屋組

植田町

小野七三郎

勿來町

近代珍無類の出来事

氣の毒な若い男女の仕損じ 人目を忍んで公園の ツ、ヂの下に大悲喜劇

結局某病院に擔き込み切り取り騒ぎ

噂は噂であつて欲しい、そ局に直面した、兩者は途方

知人消息放送

中野甲藏氏

常陸山の様な大きな体軀に落ち付拂つた態度で頭取

鈴木源藏氏

氏は喰つて餘る程の財産 家に生れた且那樣丈けに餘

大和田與平氏

磐城の實業社長として正 義の筆剣を縦横に揮い其の

遠藤義雄氏

時代は青年の力に依るも の多い然るに近時青年の多

聖公會牧師

加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

聖公會牧師加藤泰治氏

白河へ轉任

發展又發展 材木商秋山市藏君

底知れぬ不景氣不景氣の聲動勉力行の人で家業には極

さらば磐城

我が親愛なる磐城の天地よりに安らかであつた、喜悅

校外生徒の風

規取締協議 平町の公立立各學校外生

祝特別號

川前村 佐藤三郎 松本武雄

川前村

佐藤三郎 松本武雄 永山新三

佐藤三郎

松本武雄 永山新三 草野富義

松本武雄

永山新三 草野富義 佐藤祐治

永山新三

草野富義 佐藤祐治 川前消防組

草野富義

佐藤祐治 川前消防組 新妻長吉

佐藤祐治

川前消防組 新妻長吉 永山忠二

川前消防組

新妻長吉 永山忠二 永山繁美

新妻長吉

永山忠二 永山繁美 矢内清吾

株式會社 セメン瓦工業所 代表者 赤津島治

祝特別號

川前村 佐藤三郎 松本武雄

永山新三 草野富義 佐藤祐治

川前消防組 新妻長吉 永山忠二

永山繁美 矢内清吾 宇佐見源藏

宇佐見源藏 佐久間留藏 大平幸佐

猪狩喜好 永山常五郎 新妻長太

赤塚丑藏 松本榮治 根本春藏

吉田善四郎 若松健吾 宮内喜作

赤井村 若松健吾 宮内喜作

赤井村 若松健吾 宮内喜作

赤井村 若松健吾 宮内喜作

赤井村 若松健吾 宮内喜作

赤井村 若松健吾 宮内喜作



祝特別號 平町	武藏鐵工場 平町	坂田金物店 二丁目	和久井漆器店 二丁目	武藏屋 職業紹介業	矢吹與助 醬油釀造元 平窪村	山田幸吉 湯本町	石川亭 御料理 鈴木牛乳舎
只野忠康 平町三業保健組合長	花澤久一郎 町會議員	阿部治作 鎌田	織田材木店	薄硝子製造所 内郷村小島	作山柳吉 永崎區長 江名町	常陸館 内郷村綴驛前	渡邊鐵工場 中野勇吉
齊藤鐵次郎 平町三業保健組合副長	永山勇吉 銘酒由良之助 久保町	大黒屋勝治 商店 三丁目	阿部材木店 早川材木店	四家又一 村會議員 内郷村小島	金成商店 湯本町	江尻松吉 湯本町	佐川鶴松 入山探炭株式會社
坂野與太郎 平町三業保健組合會計	なかや洋服店 二丁目	橋本波貴智	新川町 佐藤材木店 佐藤福松	涌井恒昇 内郷村	吉田忠太郎 四倉町	井坂千代松 湯本町	根本麟平
坂本商店 米穀木炭雜貨商 平町杉平	和田禎宗 質商 三丁目	赤心堂病院	外科專門 木村外科醫院 六丁目	涌井恒昇 内郷村	西山せん 産婆 大浦村	渡邊態藏 志賀兼吉	小野房吉 瀨戶吉郎太衛門
香野利一 平水道課長	三井質店 四丁目	小野藥店 大一屋商店	不動澤炭礦 菊地傳一郎 内郷村	木佐藤三平 商 内郷村小島	賀澤茂平 セメント瓦製造業 大浦村	白土岩尾 赤井村神職	平井儀平 湯本町 小井戸庄松
大河原金之助 平收入役	西村屋藥店 二丁目	住吉屋支店	高階一郎 赤井村	服部彌三郎 柔道教授 好間村元山	木村金太郎 東セメント製造業 大浦村	大平門三郎 赤井村鹽田區長	吉田屋旅館 小名濱町 五幣成三
御料理 石まこ	磐城工業商會 中村佐治助	荒川銀治 土木建築請負業	吳服太物商 佐藤商店 内郷村藤棚	日野ハナ 内郷村	蘭部一男 セメント瓦製造業 大浦村	木田時保 赤井村	大谷清松 セメント瓦製造業 大浦村
田邊忠造 機械商	清光堂本店 二丁目	猪狩菊三郎 土木建築請負業	萩庭商店 雜貨商 内郷村綴驛下	山口藥店 内郷村綴驛前	鈴木寫眞館 鈴木村助役 小名濱町	鈴木久之助 神谷村	大谷清松 内郷村
鈴木常雄 二丁目	洋酒罐詰類 玉川屋酒店 細屋町	強口唯七郎 土木建築請負業	大越卯之助 區長 内郷村白水	洋品雜貨商 佐川商店 内郷高坂礦下	鈴木平九郎 玉川村助役	鈴木與右衛門 内郷村	永井商店 内郷村
若松アサ 裁縫教授 平研町	額賀廣次	國井清義 磐城銀行四倉支店	涌井保 内郷村綴驛	田所恒夫 磐城炭礦合宿所 内郷村	小泉一良 玉川村收入役	坪井武平 赤井村炭礦業	大谷時計店 平町

石城銀行組合  
平町三業保健組合

炭礦鑛業所

朝鮮炭礦事務所

大網漁場

山家メッセ店

石城郡第三小學校校長會  
平町公立學校  
校懇話會

石城銀行組合  
平町三業保健組合

共稅郵價定日行發  
每月十五日一日  
部金二十錢  
年分二金  
一割一十錢  
行發縣島福  
平郡城石  
憲立城磐

は小數を壓迫し權能は自由  
を物束し其が代價として柔  
道初段と拳闘の選手と罵り  
雜言とが其會議を飾るので

祝特別號

釜屋商店  
諸橋元三郎